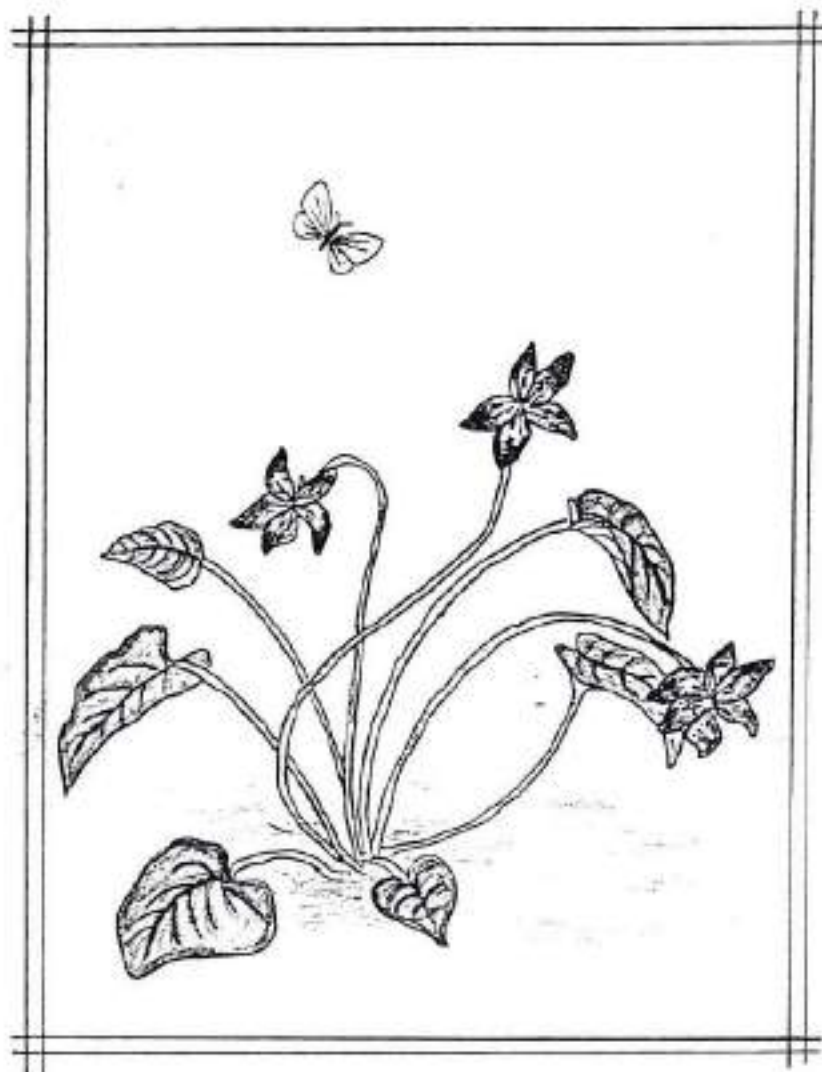


Interpreter

Workshop Vol. 5

木 林のつうしん



府民の森パークレンジャー 1996.3

I n t e r p r e t e r
W o r k s h o p
VOL. 5

(もくじ)

はじめに	1
小山紀子	2
太田祐子	3
権藤検一	4
松野啓太	5 ~ 7
椿本香	8
規矩伸彦	9
久松令子	10
後藤美穂	11
手島かおる	12
吉田光方子	13
川端洋子	14
田中博美子	15
津野智子	16
森本栄一郎	17
金崎弘高子	18 ~ 19
南浦佐知子	20 ~ 22
神村秀樹	23
赤松良彦	24
大石泰巳	25
稲垣裕治	26 ~ 28
岡本真由美	29
山田千佐子	30
磯野川つ子	31
宮川聡子	32
有田智郎	33
不破紅樹	34
編集後記	35
おわりに	36

一年間の感想

小山 紀子

パークレンジャーももう3年目が終わろうとしています。年々1年が過ぎるのが早く今年イベントに1回しか参加しないままにレンジャー生活も終わろうとしています。

レンジャーをして普段の生活で鳥をみつけたり、花がきれいに思えたりするのがこの3年間の収穫です。

皆さん本当にありがとう。



この1年をふりかえって。

今年はず年目だったのですが、私には
去年よりも今年が充実していたのではないかと
考えています。^{あきこ}私には、どすか。

ただ、やろうと思えばもっともっとと×10
学べるものはあ、たんだらうと思ひます。

消化しきれてないというか、私に積極性が
なかつたというか。…残念なこと。どすか。本当。

今年、人にいろいろなことを教えてきたし

また、ひとに迷惑をかけることになつた
↓^{本当に迷惑かけた}降りました。皆さんごめんねさ。お^{そして}りか^{見たいは}いごさ^{ない}いました。



この1年…と、本当にもっとも何かはどまたはずどすか。
これでも、おかげで^{そのこと}有意義にすごせた…と思ひます。自分は
ちよと人間のかど^{かど}がとれた。丸くなつたなあと思ひ、ど
どすか。これでも何か^{うーん他に}…た…ことはあつたよな気がしす。
反省しなかつたわけな…のどすか、一言だけ。

^{おんがさ}本当にありがとうございます。お会いする
ことな…人もいろいろと思ひますが、元氣で元氣張、と
いってください。^{あつたはばり}頑張ります。1996年2月。



「一年間の感想」

この一年間を振り返ってみると、いろんな経験・体験をさせて頂きました。

中でも一番印象に残っているのが、パノラマハイキングでの「劇」です。あの時は、みんな仕事・勉強等で時間が無いにしかがれらすセリフや身振りを当日まで練習してました。

私もできるかぎりセリフを覚えよおーと努力した結果が。

「... じゃあ...!!」の一言。

たたく今までの練習は、いったい何をやっていったんだろうと自己嫌悪に落ちた。ドボン!!

しかし立ち直りのはげ、私は、ハッ! と気持ちを引き込んで次の活動とがんばろおーと復活ピカッ。

でもすばらしい仲間であるレンジャー諸君。私と会うたびにあの魔の言葉「じゃあ!!」... 何んて奴らだ。

まあ、心のざせいで私は、そういったレンジャーを評し、自分自身の成長の糧としてきたのである。

今とは何がすべてが... 経験であり、思い出です。

またいつの日か「劇」に再度参加してみたいです。今度は「じゃあ」ではなく「おい。」という事で。

冗談はさておいて、本当にレンジャーと出会えた事が私にとり一番うれしかった。レンジャーに入っただけじゃ一生みんなに会うことがなかったかもしれぬ。みんなを考えるとみんなと出会える事ができて良かった。そして、いかに就職・転職・転勤・転居と離れ離れになるかもしれぬが、いつかきっとみんなと会おう。工作館で。

※ 教会のレンジャーのみなさん一年間どうもありがとうございました。

3期生

榎藤 椋一

1年間の感想

3期 松野 啓太

身近な自然を観察してみようと、いろいろ自分なりには通勤途中、仕事の途中、家のまわり等でいろいろと注意をしていると結構興味あるものを見つけられた事が、うれしかった一年でした。

あと、図書館のに通い、興味の範囲を広げることが出来たと思います。

近頃、旺示もよちよちではあるが歩くようになってきたし、ほかほか陽気の日も増えてきたし、どんどん森の中に連れ出してもいい頃かなと思っています。

さて、子どもの成長の早さにはた本当に驚くばかりです。

寝返りが出来なかったものができるようになり、はいはい、よちよちと目に見える成長だけでなく日に日に深まっていく物の認識度。

ただ、心配なのは何でもかんでもそのまま吸収してしまうので、自分の入ったとおりになるのは楽しいが、へんなことをおしえるとまづい！

これは、レンジャー活動にも同じ事がいえると思います。(参加者は、レンジャーの言うことを素直に信じてくれるので)

んーそうだ、図書館で読んだ本の中でちょっと印象に残ったがあるので、みなさんに紹介したいと思います。

まず、目をつぶった方がいいでしょう。その方が気が散りませんから。次に自分自身にいろんなアイデアを言ってみてください。具体的なものや抽象的なものを。たとえばこういう質問をしてみてください。

「ニューイングランド地方の集会所はどういう風に見えますか？」

「三月下旬、いなかでなにを見ることが出来ますか？」

「かもめとつばめの飛びかたはどうちがいますか？」

「三匹のクマの家を描写してみてください。」

「学校の掃り道の、楽しげな田舎の子どもの姿。」

「夏の夜はどのように感じられますか？」

この様な事がらを、実際のこととして経験し、表現することのできる能力は、人によって百八十度ぐらいの開きがあります。私のクラスの学生たちで試してみたところ、次のようなぐあいでした。

最初の問いに関しては、「教会」というのや、「高い塔のついた白い四角い教会で、塔には鐘があります。窓には緑色の雨戸がついています。入口はポーチになっていて、今人々がそこへ入っていくところです。オルガンの声が聞こえてきます。曲は“主のとうときみことばは”です。」と言った風でした。

三月についての質問では、「わかりません。」や「注意してみたことはありません。」というのから、「木々はまだはだかで、小川も半分凍ったままです。でも小川のつつみに並ぶ柳の木の枝の先は黄色味をおびています。三月の末にはこまどりの声をきいたこともあります。」というのまでありました。

楽しそうな田舎の子どもに関しては、「笑ったりうたったりしていると思います。」というのや、「それは、こいみどりいろのセーターをきて、チェックのスカートをはいた小さな女の子です。髪の色は黒くて、それを三つ編みにして、その先に赤いリボンを結んでいます。足ははだし。ししっぱなをしていて、ニコニコ笑っています。口ぶえをふこうと口をすばめて、スキップをしながら道をとんで歩いています。」というのまでありました。

もう一つ、夏の夜については、「あつい」、「あつくてべたべたしているかんじ」、「寂しい」などの答えがありました。一人の器量のあまりよくない目の大きな学生はこういいました。「ふしぎなものでみちあふれています。地面をヒタヒタたたいているのは、もしかしたら、妖精の足かもしれません。それとも他の、もっとふしぎなものかもしません。空の星はとても近く見えて、手をのぼせばとれそうです。」

このゲームは子どもがよろこんでやりそうな気がします。私が試してみた学生たちはみなこれをおもしろがりました。それとともに、いつも何かおどろくような発見をしました。

はっきりともものようすを目に描くことができ、それを絵のように人の目の前に展開できる人を見て、そうでない人たちはとても感心するのです。どの人も、この試みの価値は一様にわかったように思います。さまざまのものを心の中で経験できた人も、それをみた人も、チャールズ・モーガンがいうところの霊的変化が起こるのを感じたのです。さまざまのものを心の中で経験できた人は、想像力の力で唇からはなれることばを実際のせいめいをもつものにかえることができたのです。それはことばに洗礼をほどこすようなものだともいえるでしょう。

もう一つわすれてはならないことは、私たちが観察し、もっともうまく再創造できるものは、それぞれがもって生まれた好みにもよるといことです。「三匹のクマ」の家をすばらしく描写できた学生が、カモメやツバメに関してはどうにもならなかったことをおぼえています。私自身、もしも最新のよそおいをした近代的な女性を描写しろといわれたら、とても貧弱な答えしかできないでしょう。そのかわり、スペインのフィリップ二世の宮廷にいる貴族の奥方を描写しろといわれたら、すばらしい答えをすることができます。

浪費をせず用いること。創造性を保つ想像力をすぐ駆使できるようにしておくこと。これは今日はなしをおぼえて明日語る語り手たちによって、あまりにもしばしば忘れら

れている点です。その人々は、ことばを使って実際の光景をみることができ、それをきく人の目の前に展開することのできるこのすばらしい魔力を忘れてしまっているのです。

ストーリーテリング入門より

では、ながくなりましたのでこのへんで・・・

パークレンジャー活動を ふりかえって・・・


色々な事に挑戦し続けた1年目に続き、さらにPOWER UPした
2年目・・・。

全力で走ってきた道をふと足を止め、時々よそ見をした、そんな気がする1年でした。少しずつ自分のしたい事、やってみたい事が見えてきたのでこれからも周りのスピードに流されずに自分らしく生きていけたら、と思います。

仕事の都合などで日程が合わなくて、今年度はあまりイベントに参加できず、フィールドに出る機会が少なかったのが残念ですが、3年目は研修、イベント、会議、講習会など、どんどん参加して色々な事を吸収していきたいと思っています。

そして土のにおい、風の音、緑の移り変わり、木の感触、太陽の光を感じ、もっと自然と触れ合っていきたいです。

みなさんこれからも
よろしくお願いします・・・

つばきもとかおり 



思えばこの一年は、誰もが予期しえなかった様々な出来事、事件が次々おこり、まさに激動の年であった。日本社会も戦後50年を迎え、安定したレベルにあった現代日本の文化・価値体系が成熟しすぎ、様々な場所で軋轢やほころびが生じ始め・・・という話じゃなかったね。こういうことに興味のある方、今度ゆっくりお話しましょう。

ではこの一年間の活動で個人的に印象的だった出来事をピックアップしてみました。

“工作館にペットボトルロケット登場”

はじめて飛ぶのを見たときは、本当びっくりした。それを見ているビジターの子供も大人もびっくりしていた。来る度にロケットが改良されているのもスゴイ。いつかグライダー式ロケットを作り、日本記録に挑戦してみたい。

“キャンプ実習で朝まで徹夜（6/17～18）”

1日目の実習が終わりみんなで焚き火を囲んでしゃべりあっているうちに、ゲームで盛り上がってしまい気がつく朝だった。みんな、いわゆるナチュラルハイ状態になっていた。しかし翌日、睡眠不足で満足に活動できないでは確かにアカンわなよ。

“スマンスマンのスターウォッチング（8/19～20）”

この時は肉体的疲労のピーク状態にあり、遅刻するわ居眠りするわで、参加者のみなさんには大変申し訳なかった。しかし天体協会の人って自己主張が濃いなー。なんにもないよりはいいんだけどね。

“らくらく登山道から夜景をみる（8/26～27）”

「I・P WORKSHOP Vol. 3」編集発行のためスタッフでセンターハウスに泊り込む。大阪平野の街明かりを一望してロマンチックな気分になる。で、気がつく朝だった（また徹夜だ！）。

“パノラマハイキングのお頭をする（9/23）”

誰でもそうだろうけど、やはり自分が行事責任者（ヘッド）となったイベントというのは、一番印象深い。人間不信の自分だが、いろんな人にサポートされて無事やり遂げることが出来た。人という字は支え合うとかいて人となるというのは本当だね。

“キャンプ実習でガイドウォークを体験（10/14～15）”

他団体のガイドウォークに参加。いままでのレンジャー活動とはまた違った味があり、とても興味深かった。

“園地ワークで木を切り倒す（11/12）”

ヒノキをノコギリで切る。ワークということは別にして、バリバリと木を倒すと自分が偉くなったような気持ち（とんでもない勘違いだが）になり気持ちがいい。これで味をしめてしまい、夜中にこっそり木を切り歩く、てなことになると怖い。

“ネイチャーイベントがTVで放映される（1/29）”

TVに映ったレンジャーの姿をみて笑う。

“奥琵琶湖で某レンジャーと鉢合わせ（2/3）”

スキーをしようとマキノで宿泊するが、そこでどこかで見た顔の人が・・・。お互いびっくり。え、誰が誰と一緒にいたかだって。そんなこと私の口からは言えません。

さて、今年は何が起こるかな～。

~~~~~

「 一年間の感想 」

久松 令子

パーク・レンジャー活動を始めて、早くも2年が経ちました。今、振り返ってみて思う事は、少し落ち着いて色々な角度から自然を眺めたり、色々な感動を人と分かちあいたいという気持ちが強くなったということです。その方法として、インタープリテーションがあるのだけれど、話し下手の私にはまだまだインタープリテーションの正体もつかめていません。ただ、どんどん色々なフィールドに出かけて、私なりの自然観というものが少しずつ変化している実感が、この一年間で得られました。そして自然を見る目だけでなく「人」に対して感じる温かさや淋しさ、その他の様々な感情を受け入れる強さみたいなものが私の中で育ったような気がします。そして、その自然観や人間観の変化を生み出すきっかけとなったのがこのパーク・レンジャー活動であると思います。

二年目を終えて言えることは、私はまだまだ何も知らないということです。ということは、これからたくさんを知れる喜びがあると思います。次は何だろうとワクワクしながら、未知の世界へ飛び込んでいきたいと思っています。

~~~~~




3期
後藤美穂

こんなのたし
どすか。
来年度も
どうぞ
よろしく
おねがい
します

とりみに
いたって
ざんねん

今年度は、ほとんど活動に参加せず"いまい。
ごめんなさい。

来年度は、4期の方々に
お礼のよう(?) がんぱ"る。

おもしろくするも。
つまらなくするも
じぶんしたい。

ま"は べんき"か...!"

『1年間の感想』

手島 かおる

レンジャーになって、1年間が経とうとしています。

私がレンジャーに応募した動機は、少しでも多くの人に自然っていいな…と感じてもらえるように手伝いたかったからです。自然の素晴らしさを知ると環境問題にも自然と目が向くと思います。

でも、自然ってなんだろう？大沢さんに言われるまで、
ぼんやりとしたイメージしかなかったなんて。なんか
上記の動機もしらじらしいなあ…

最近、とてもショックを受けたことがあります。はっきりとは覚えていませんが、新聞の書評欄の「最近、子供の本で環境問題を取りあげたものが増えているが、子供に環境問題を押しつけるな。」というようなものだったと思います。確かに環境問題ばかり考えさせて、自然の中で遊ぶことの楽しさを知らなかったら、逆効果だろうなと思いました。

でも、イベントに参加される人々はたいていが自然好きの人で、みんな楽しみ方を知っているように思いました。イベントには子供さんもたくさん参加されますが、イベントを機会にもっともっと自然に興味をもってくれたらいいと思います。そのために、できることをレンジャーとしてこれからも考えていこうと思います。

「1年の感想」などというタイトルを見ると、今年は過去2年間と比較してガタッと参加回数が減っているだけに何となく引け目を感じ、「反省文」的なものを書いてしまいそうになる。ひとつ言い訳を許してもらえらば、昨年の今頃、迷うことなくレンジャーを継続すると答えたときにはこんな結果になろうとは思ってもせずやる気満々だったのだ。

今年度一番強く感じたことはレンジャーの活動範囲が着実に広がりステップアップされてきたということだ。1年目の参加する、2年目の企画する、3年目の共に成長するという段階を経て、自分達が必要だと思う研修を提案し、協会の援助を受け実現する場を与えてもらった。7月のキャンプにしても12月の室内研修にしても1期生自らが経験して印象に残っていること、もっと深く考えてみたいこと、などを何度も話し、意見を出し合いながらまとめた結果、実力が伴わない点はあったもののどうにか形作ったものだ。正直なところ負担が大きすぎて戸惑ったこともあったがこれだけ自由にやらせてもらえ感謝している。と、同時にせっかく与えられた機会を十分に生かしきることが出来ず悔いも残る。目の前のケーキを食べ損ねてしまったような気分だ。

また、今年度は今後のレンジャー活動の方針を考えるということで話し合いも持ったのだが各人が様々な方向を目指していたり、模索中であつたりと定まらないなか、私自身、目的の為の手段だったはずのものが目的と化している、即ち私の本来の目的であった自然の大切さに気付いてもらいたいがために森のなかで楽しむという手段を選んでいたつもりだったものがいつの間にやら森で楽しく遊ぶ！が目的となってしまう、アレ?! こんなはずじゃなかったのにーと焦ったこともあった。軌道修正をするもよし、再度本来の目的を見つめ直すもよし、なんのためのレンジャー活動だったのか考えるのによい機会だったと思う。

最後になってしまったがやはりレンジャーは活動に参加するのが基本だと、当たり前のことを今年度はつくづく感じた。何事においても言えることだが一生懸命やればそれだけ費やす時間は多くなるし、また逆にそれにかかる時間が多いほどのめり込み苦しいこともあるが楽しみも増してくる。活動で共有の時間を持たなければレンジャーの楽しさも味わえないし、楽しくてのめり込めばついつい時間がかかってしまうものだと思う。——と、参加できなくてジレンマに陥った私が言うのもおこがましいがこれが今年度の私の一番の実感のように思う。

感謝します。

3PR) | Ⅱ 洋書

その心をこめて、詞をご紹介させて頂きます。

「IF THE WORLD HAD A SONG」 白鳥英美子。CD「IF THE...」より。

If the world had a song of love
Everybody could sing
Just imagine the joy
That the music world bring
We could sing of peace
In sweet harmony
If the world had a song
With enough love for everyone
Love can light a spark
Touch a heart
There is no greater power
So when you hear a song
Sing along
Love makes the world go round

世界中の皆誰もが歌える
共通の愛の歌があったなら
この世の平和を美しいハーモニーで
喜びは隠れにまで広がる
もし世界中が同じ歌を歌い
大きな愛を分かちあうことができたら

愛は生命の炎となり
人の心に語りかけ
何にも増して強い力となる
愛のために歌いなさい
世界を重くする源として

If the world had a song of love
Everybody could ^(sing a song of love) sing
Just imagine the joy ^(in hand)
That the music would bring
We could sing of peace ^(sing of peace)
In sweet harmony ^(in harmony)
If the world had a song ^(with enough)
With enough love for every one ^(love for everyone)

世界中の皆誰もが歌える
(愛の歌を歌えよう)
愛を讃える歌があったなら
(手に)
歌うたびに (手をとって)
喜びは世界に溢れ広がる (喜びは世界中に)
平和への愛しい (平和を愛する心で)
美しいハーモニー (ハーモニーで)
もし世界中で 声を合わせ
(この世に生きる人々)
大きな愛を分かちあうことができたら
(愛を分かち合うために)

No it's not too late
Give and take
We can still live as friends
So let the song begin
Sing and then
Love will be born again

手は握るまじはない
譲り合うことを忘れる
友と手をとって歌を歌おう
力を合わせれば
愛は再び生まれかぶる

♡ Repeat ...

♡ 4かえり

J.S. Bach: 1681-1750 聖書の聖句の喜ばしき

- 愛 = 自然 = 〇 たがひ
- 初めにはどうも PR をするにあたって。初め「E忘れずバカ」で。
- 反省します。何のために 〇 なのか。
- 今、どこに向かっているか、歩んでいるかを常に 1996 2.22

Balance Love & Balance

★★★ 1年間の感想 ★★★

1期生 たなか

1年はほんとうに早い。

ついこの間、「今年こそがんばろう」と思ったのに、もう1年をふりかえる時期なのだから。

今年は3年目ということで、少しだけ余裕と自信(?)をもって取り組めたように思う。

今年度もっとも印象深いイベントは、1月に行われた森本ヘッドの「タコあげ・タケうま・むかしあそび」である。このイベントでは、レンジャーはリーダーと本部スタッフとして参加したのだが、各々の事情で下見に参加できたのは少数だった(らしい)。私など、下見はおろか、打ち合わせにも参加していなかった。こんなことで、イベントに参加、ましてリーダーをできるのか(私はリーダーだった)、とても不安だった。

しかし、結果オーライ、イベントとしては大成功だった。それはたぶん、森本ヘッドをはじめ、いろんな方々のおかげだろう。その上で思うのだが、1年目や2年目の私ではできなかつたろう(下見・打ち合わせをとばして本番に臨む、ということが)。

ところで、イベントに参加するためには、下見・打ち合わせ・本番の3つに参加できるのがベストなのだろうが、今回のイベントが大成功だったので、私はヘンに自信を持ってしまった。いや、下見や打ち合わせに参加しなくても、本番は上手くいくと考え始めたのは2年目からで、実際2年目以降は、本番だけしか参加しなかったイベントばかりだった。果たしてこれでいいのか……。今まで無我夢中だったが、ここで少し立ち止まって考えてみる必要があるようだ。

とはいっても、トータルで見れば、自分では、過去3年間でもっとも満足のいく1年間であった。

これも有田さん・不破さん・協会の方々・レンジャーの皆さん・参加者のみなさんのおかげです。ほんとうにありがとうございました。

たくさんの感謝をこめて・・・

この一年、いろんな活動をさせていただいて
たくさん思い出があるけれど、
なんといいてもこれ。
このことは、“パークレンジャー”という
名のもとにおいては本位ではないことを
重々承知しているのですが、
私にとってはやっぱり、

「こどもさんと遊べたことがしあわせ。」

(“遊んで”ばかりではいけないのですが… ついつい…)



最近のこどもさんときたら、
ドキッとするようなおませさんなことを
平気で言ったりするし、
世の中を冷めた目で見つめていたりもする。

…………… でも。……………

クラフト e t c に目を輝かせて
真剣に取り組んでいる姿や、
「ねぇ！聞いて聞いてっ！」と
話し掛けてきてくれる表情のその純粋さには、
どんなことも勝てないだろうな
と思ってしまうくらいの方があって。

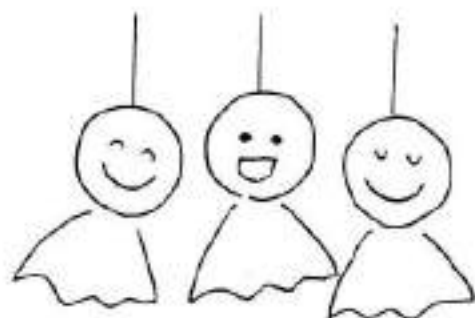
その証拠に、あるイベントの帰り際に私の住所を聞いてくれたこどもさんから届いた手紙は、love letterより嬉しかったー！！(ん??)

こどもさんから
教えてもらったこと、
与えてもらった輝き☆は、
私の大切な宝物です。

パークレンジャーとして、こうした場をいただいていることに
心から感謝しています！

「来年度、どんなこどもさんに出会えるかなぁ。」

これからは
遊んでばかりに
ならないように
がんばりますので
みなさん
これからもよろしくお願ひいたします。



1 年間の感想

2 期もり本

去年、1 年間は私自身にとって激動の年でした。未曾有の大震災がおこり、私の親戚がたくさん被災したこと、また、私がついに結婚してシマッタことなどがありました。

明るい話をとよめることなので、結婚したことについて、これから話します。

結婚前、

「最近イベントに来えへんなぁ〜。あのおっさん、あかんでえ！」という声や結婚後も、

「やっぱり、あのおっさん、あかんわっ！」という声が風によって、あっちこっちから私の耳に聞こえてきました。その度に嫁さんの後ろ姿を想像し、「本当は行きたいねんでえ」とポツリポツリと言っていたもんです。

しかし、結婚はやっぱりええでえ〜。結婚して良かったことを何点か挙げてみましょう！

①旅行に行ける。(ドアホ、新婚旅行のことかぁ！)

②人におのろけを聞かすことができる。(ウン！ウン！)

などなど、いっぱいあります。いいことばかり話しましたんで、次に、結婚してアカンようになったことを何点か挙げてみましょう！

①責任！、責任！という2文字が背中にとどかとのってきたこと。

②「スナック行こう！」と言う軽い、軽やかな5月の風のような7文字が口から滑らかに出なくなったこと。

しかし、時々行って、2文字をおろしています。

スナックといえば金崎レンジャー(通称キンちゃん)いわく、

「()レンジャーと()レンジャーが店開いたらいっぱい人が来て、もうかるでえ〜」という声が聞こえてきそうです。

※()が誰と誰かが知りたい方はキンちゃんに聞いてねえ。

まあ、さておき、これから結婚する。あなた！あなたですよ？！。

不破さん、松野さん、森本をお手本に幸せ、るんるん3人組のような家庭を築きましょう。あっ、忘れてたっ、有田さんそこ！。

でもいっか、あそこは・・・だから。

◎最後に、なりましたが、レンジャーの皆さん！

私の結婚を祝福していただきましてありがとうございました。お近くにおいでの際は是非、お立ち寄りください。ただし、2人以下で来てください。3人以上だと立席になります。

P.S. 1月のイベントにはたいへんお世話になりました。皆さん、寒い中ありがとうございました。

よしなしごと

今までの レンジャー活動を振り返って思うことは、いろいろ、いっぱいあるけれど、この場では、楽しかった、面白かった、良かった、そんな事を……

○一斗缶オープンで焼いた、ホカホカの手作りパン。

○野外で自分たちで作った食事のおいしさ。

○せっかく、きれいにお皿に盛った夕食もよく見えない、夕方のたそがれ時。

○薪の煙が体にしみついて、家に帰ってからその匂いでキャンプを思い出す、その瞬間。

○ちはや園地から見る、夏の大三角形、さそり座、そして天の川。

○宇宙の塵が燃えつきる時に一瞬のきらめきを描く、流れ星。

○朝には弱い、夜には強いレンジャーのパカ騒ぎ。その為に、8月だと言うのに南の低い空にはオリオンの三ツ星が……

○学の中で、ほのかに光る蛍。

○夜寝ないで遊んで、翌日クタクタの宿泊研修。

○イベント、研修、会議等がおわってからの「ちょっと一杯」。

○会議と称しながらの、差し入れいっぱいの茶話会。

○自分で作ったしめ縄で迎える新年。

○気になった花や木、声の素敵な鳥を、目や耳、指先で憶え、時にはノートに記して、帰ってから図鑑で調べるときのドキドキと、名前を見つけた時に、まるで自分でそれに名前を付けたような気分になるうれしさ。

○らくらく登山道からの、燃えるような夕日。

○明石海峡大橋まで望む、展望台からの大阪のパノラマ。

○劇では、「がっぼり、もうけなのお～」の大地主役で、子供からの「アホッ!」「死ね!」の歓迎の声。

○ピジターの「ありがとう」「楽しかった」「また来るね」等の、帰りしなの一言。

○子供のこぼれるような笑顔、真剣なまなざし。

○子供からお菓子をもらった時。(決して奪ってはいない…)

○生意気で、わんぱくな、ガキども。

○「金ちゃん！」と、呼んでもらう時。

その他、あんな事、こんな事、そんな事……

ピジターから、子供から、そしてレンジャーの皆さんから教えられることばかりで、いろんな時に、仲間のありがたさを知り、レンジャーの女性はかわいい子が多いし、男性は皆アクが強いし（あっ、俺もか!!）。嫌なことも、しんどい事も、たくさんあるけれど、そんな事は楽しいことや、時間が消してくれると信じている。

新レンジャーの方や、今まであまり顔を出せなかったレンジャーの皆さんも、今年こそは、一緒にしんどい思いをしながらも、もっと楽しみませんか？ 今だからできる何かを、楽しいことを見つけるために。

あっ、そうそう、今年度も帰りしなに、ちょっと一杯いきましょうね。

きんちゃん

スペースが余ったので余談

今は真夜中の0時台で、自分の部屋でお酒と煙草を味わいながら、FM大阪の「ジェットストリーム」というラジオ番組を聞きながら、ワープロを打っています。少し前から、ナレーターの人が変わってしまい悲しんでいるのですが…。今の人も悪くはないんだけど、以前の城達也さんの名台詞の「遠い地平線が消えて、深々とした夜の闇に心をやすめる時、遙か雲海の上を音もなく流れ去る気流は、たゆみない宇宙のいとなみを告げています。……」という、あの渋い声はやはり良かったな～と思い出してしまいます。ついでに言うと、映画の「銀河鉄道999」のナレーションも、城達也さんで「今、万感の想いを込めて汽笛が鳴る。今、万感の想いを込めて汽車が行く。一つの旅は終わり、また新しい旅立ちが始まる。さらばメーテル。さらば銀河鉄道999。さらば、少年の日。」よかったな～、このエンディング。

誰かこんなマニアックな話がわかる人いますか？

やあやあ、今年もやってきましたね。この季節が。
こうやって改めて自分ってえのを振り返って見つめ直す作業。わりと好きでね。
また、他愛もないこと、いっぱい書いちゃいそうだけど。

今年ね、いろいろあったね（いろいろなかった年なんてないけど）。
私の学生生活もとうとう終わりだし。1999年まで働かないんだい。なんてうそぶいて
た自分が嘘のよう。人間まるくなつたもんです。私も。

いつまでも子どもじゃいられないのは小学生の時から知ってたけど、自分がおサルさん
じゃなくなる日がくるなんて、誰も教えてくれなかった。私はいつまでもウキウキ言っ
泣きたいときに泣いて、それから笑えるもんだと思ってた。

誰だっけ。「子どもはいつか、うそ泣きを覚える。大人はいつしか、うそ笑いを覚える」
なんて言った奴。すごくいいぞ。

くそお。いてて。

にんげんって、痛いじゃないか。

痛いのは好きじゃないけど、でも、たまにだったらいい。生きてるって感じがする。い
ててて、て。

なんてしょっぱなから意味不明なこと書いてしまいました。すみません。
今の私の心境をありのままに書いたら、こうなりました。だけど、こればっか書いてると、
だんだん自分の世界にはまってしまうので、これくらいにしといて。何でしたっけ、今年
の感想でしたっけ。

そおですね。バツと頭に浮かぶのは、やっぱヘッドの経験、でしょうな。なんてったって、
こいつは私の、今となつてはかわいい子どもですから。

じゃあ前はなんだったって？ うーん、私に一時期、マタニティ・ブルーと育児ノイロ
ーゼをいっぺんに経験させてくれた奴かな。

ヘッドの経験は、いい意味でも悪い意味でも、ものすごく「痛かった」です。こいつ
は、産みの痛みという奴です。

その痛みのまんなかで、私がつくづく感じたコトをひとつ。

ヘッドって、楽しいと自分が感じなきゃ、つらいばかり（なんでもだけど）。その楽
しみは、自分が楽しもうと思わなくては、生まれてこない。いかに“あそびごころ”をも
てるか、それが肝心、っていうこと。

イベントを創作することの責任を、義務とか、負担と感じたら、森の働きなんてあった
もんじゃない。責任とプレッシャーの重圧に押しつぶされそうになって逃げ出したい気持
ちに必死で耐えるのに、ものすごいエネルギーを使ってしまつて、もう、周りがなんにも
見えなくなる。どれだけたくさんの人が私を手助けしようとして、待っていてくれるか
はじめて持ってたはずの小さな感動や発見もどこかに吹っ飛んで、ひたすらつらい。

森にいても、今までだったら、今日の空はとってもいい感触、だとか、この葉っぱはき
れいな色だ、においもすてき、なんてやってるのに、それが全て暗記の対象になつたりね。
やなもんです。ちっとも楽しくないんだもん。あげくの果てには、何やってんだろ、あた
し、他にやらなきゃいけないこといっぱいあるのに、なんて思っちゃう。

忘れてんだよね、ずれちゃってしまうのかな、「～したい」、「こんな事ができたらい
いな」と思っていたはずが、いつのまにか、「～しなくちゃ」とか「～でなくちゃ」って
いうのに代わってる。

例えば私は、はじめはイベントのイメージを「わくわく・ぼかぼか」にしてたのね。イ
ベントは12月だったし、寒いから。自分で作ったリースやしめなわと一緒に、「わくわ
く・ぼかぼか」の気持ちも、持って帰ってもらえるようなイベントにしたいな、と。

ところが、いざそれを具体化しようとして、アイデアがわからずに苦しんでいると、だん
だん自分自身の心に、「わくわく・ぼかぼか」がなくなつてしまつて。

毎日毎日ずしんと重い資料や参考文献と一緒に暗い気持ちとどんよりした不安を持ち運
び、何してても心のどっかに「どうしよう」が抜けなくて、周りに当たり散らしたり。全

っ然気持ちに余裕がなくてね。

だんだん蒸詰まってくる。苦しい。そんなとき、苦し紛れに出したアイデアなんて、何かおもしろくない。

ああ、もうダメだ、さっさと有田さんにギブ・アップして、誰か他のRに代わってもらった方が、身のためだ。本気でそう思ったし、またそれを実行に移しましたね、私は（すんません）。

「できないよ。大体無理なんだ、今のこの時期にイベント引き受けるなんて」。愚痴ってばかりいた。

そうすると、自分がイベント行なうなんて、本当に無理な気がして、ますますブルーになった。しんどいのは私だけじゃない。今までヘッドをやってきた人たちはみんな、こんな風に忙しい中、愚痴もこぼさず、やってたんだ。今回だって、こんな私をフォローするために、多くの人が手をさしのべてくれている。なのに私は、その人たちに感謝する心も忘れて、自分一人が大変だと思ってる。そんな自分がいやだったし、つらかった。

自画自賛になるけど、基本のアイデア自体は、それなりにおもしろいと思うし、魅力的なものはずだ。それなのに、なんだろう、何か足りない。でもどこを直したらいいのかもわかんない。時間ばかりがどんどん過ぎて、焦る。もう12月。イベントまで、半月もない。

そういう状態がずっと続くとね、だんだん、「ここでこれをやらなくちゃ」とか「何時までにこれを終わらせなきゃ」とかの方に目がいって、初めにあった「自分がやりたいこと」に限りなく近づけることよりも現実的な「制限に引っかからないようにする」方に力が入っちゃってね。

もちろんこれはこれですごく大事なことなんだけど、私の場合、今度はこればかりに縛られちゃって、自由な発想ができなくなっちゃったんだよね。考えれば考えるほど、自分のイメージとはかけ離れたイベントになっていくし、おまけに、自分がその状態にあるってコトになかなか気づかなくて、ずっと、「かさかさ、もさもさ」した気持ちのまま、「ちがう、こんなんじゃない」ってもがいてた。しかも、それはイベントが近づくにつれてひどくなって、もう、本番の一週間前、つまり下見のときが一番のピークでした（今思えば、だけど）。

そのときはねえ。自分で今思い出しても、みっともなかったねえ。

そんな最低の状態から説出できたのは、イベントの直前、私が風邪で高熱を出して寝込んでしまったからです。ひたすらがあがあ寝て、そろそろ寝るのにも飽きたなってとき、ふっとね、ふっきたんです。

「何をかんでんだ、あたしは、自分の持つ小さな感動を、誰かにおすそわけができたらいいな、と思って始めたことじゃないか。イベントを、絶対に成功させねば「ならない」、参加者全員に、百点満点をとって帰ってもらわなくては「ならない」なんて、そんな大それたこと考えてるから、言いたいことが何も伝わらなくなるんじゃないか。

そうあってくれたらいいな、分かってくれたら、うれしいな。

それで、十分じゃないか。

どんなにがんばったって、私は自分以外の者にも、自分以上の者にもなれないんだから」。

そう考えたらね、すっごく、楽になりましたね。そうだ、何でこんな簡単なことに、今まで気がつかなかったんだろうって。

そうか、私は、私でしかない代わりに、「私」にはなれるんだ。だったら、私の言葉でしゃべろう。そういえば、この頃ずっと無理をして笑ってたような気がするし、自分の言葉でしゃべることも少なかった感じがするな。



そうだ、これ、ペープサートにしたら、おもしろいんじゃないかな。登場人物の名前は、うん、「サム」と「いよ」（寒いよ）にして、よし、これでつかみはO.K.

そんな感じで、今までのスランプがうそのように、どんどんアイデアが出てきました（ただし、あまりに直前であったため、協会の方、それから他のRに多大なる迷惑と不安を与えたのは、お詫びします）。

この経験から私が得たことで、次、ヘッドを経験される方に言えることは、あんまり、生真面目に考えない方がいいということです。ヘッドは、楽しみながらできるのが一番いいことですが、でもそれだって、「楽しみながらやらなくてはいけない」と言うわけではありません。ただ、大切なのは、自分で「楽しもう」とする心がなければ、いつまでたってもその人にとってヘッドは「やらされている」もしくは「やらなきゃいけないこと」でしかない、ということです。当たり前なことだけど、今回、私はこのことをつくづく痛感しました。

最後に、私たちの周りに、もし人（参加者）が集まってくきてくれるのだとしたら、それは私たちが若くて親しみやすいからだけではないと思います。何かを伝えたい、という情熱があるからではないでしょうか。

自分のメッセージっていうのを明確にする、そしてそれができるだけ鮮やかに誰かの心にも届くようにするためには、自分の中での“森の輝き”を見失わないようにすることが一番大事。逆にいえば、それさえしっかりできてれば、なんにでも楽しもうという姿勢が生まれてくる。そんな気がします。

これからも私は、「遊んで暮らすより、暮らしを遊べるような生き方」を目指して、生きていこうと思います。

『ヘッドを経験しよう!』

今年度はこれにつきます。確かにたいへん。
でも、学ぶことたくさん。

協力してくれたR、御礼申し上げます。

飛躍の年にしたいね、 ’ 9 6 。

🍷・H, Kamimura

いつも楽しく参加させてもらってます大学生の赤松良彦（通称よっちゃん）です。最近、岡村と呼ばれることも多くなりました。学校では、キアヌリーブスとかジャックマイヨールって人は呼ぶんだ。よろしく。

大学2年の時から参加させてもらって、早いもので3年が過ぎてしまいました。

僕のようなちょっと変わった学生もいれば社会人の人もいて、それぞれの持ち味を出しながら、それをわかち合って、時にはそれを共有化する。そして見知らぬ人と会って、自然と人との橋渡しをする。こんな魅力的な活動は在り難いです。

この1年、たくさんやってみようと思ったことがあったのですが、体が付いて来ませんでした。おそらく他のどのレンジャーもそうだったのではないかと感じています。そうなんです、なかなか一人ではできないことがほとんどです。次の年は今までのレンジャー活動プラス、何か面白いことがみんなでできれば、と思っています。学生だから、ボランティアだからといった甘えが何処かに少しあったかもしれないですが、あまり形式ばかりにとらわれず、失敗も成功のもと、あっけらかんと気軽に楽しく、自分自身の、そして出会った人達の S e n s e O f W o n d e r を大切に引き出していきたいです。

ちょっと、カッコ良すぎて？本当ですよ。

今年を振り返って

大石 泰巳

1995年という年は、僕にとっていろいろな人に出会い、そして、お互いに何かをしていこうと気づき始めた年であった。

このパークレンジャーを通して、一体何をすべきか、何をしたいかがわかってきている反面、したい事が多すぎて戸惑ってしまう日々であるけど、何か行動を自らしなければ、得る事も損をする事もないので、これからも頑張りたいと思います。

パークレンジャーもそうだけど、僕たちがいろんな人に教える以上、人から教わることの大事さが気付けばと...

「今しかできないこと」と「今しなきゃならないこと」

1期生：稲垣 裕治

僕がよく話をする職場の先輩との会話の中で、こんなこんなやりとりをしたことがありました。

「今しかできないことをいろいろしておきたいやんか。」

「そうですか。でもね、本当は今しなきゃならないことがあるんじゃないですか。よろしいの？」

「……」

こんな話になったのは、話をしている中で、「どうも、最近同じ年代の人達が結婚をしていったりで、落ち着いていってしまっているなあ、(広く、職をすればそれで落ち着いてほう、という考えにはちょっと思うところはあるますが、要諦として)」といったことを話している時に、出たやりとりです。(ちなみに僕は27歳、その先輩は28歳女性、ともに独身。)僕のいる職場では、若い年代が多いせいも、独身組はよくまわりの人達に「そろそろ結婚か？」といったことをしょっちゅう聞かれてうんざりしているわけです。さらには、ちょうど今の時期、25歳前後の年代で結婚ラッシュが続き、よけいにこういったことを言われている状態です。「ほっといてくれ!!」というのが本音ですが。

はじめっから横道にそれました。恋愛談義をしたくて、こんな話を持ち出したのではありません。一年間の感想を書こうと考えているときに、ふとこの台詞が甦ってきました。その謎解きをするのではなく、レンジャーの活動でも、なにか共通するよう感じる事があったので書いていきます。

今年で、このレンジャー活動に参加するようになって3年目となりましたが、思い起こすと「今しかできないこと」をしよう、と変に気負って、応募したんじゃないだろうか？と思います。(もっとも、何をするかという目標からいってきたくらいはありますが)考えると、何も知らないところに自分で足を踏み入れようということは勇気がいることです。そういった行動力を持っているレンジャーのメンバーというのは、みんなすごいパワーを持っているわけで、集まって何かをする度に、その時には気が付いてはいないかもしれないけれど、刺激や新たな発見のあるところだと思っています。これが少し進むと、「今しかできないこと」をするには、「今しなきゃならないこと」あるのでは？と思うようになりました。さきほど

の会話で言ったときは、この二つが両極にあるものとして気軽に言ったのですが、実はそうではなくて、同じ一直線上にあるものではないか、と感じるようになりました。正確ではないかもしれませんが、例えば「家を建てるにはしっかりした土台（基礎）がいる」というようなものではないでしょうか。そう思うと、個々の場面で大変と感じたり、しんどく、うっとうしく感じたりすることが仮にあったとしても、ゆったり構えていられるようになったように感じます。

まだ、具体的に自分では「何をしたい」のか見えていないのかもしれませんが。そういった状況でも、他の人が「こんなことをしたい」という話を聞いたり、お互いに話をすることによって、見えていることがあると思います。その積み重ねで、一步一步ステップアップをしていけたらうれしいと思います。

この一年間もいろいろありました。(早くも終わっているように感じますが?)人間って感情があるから、波があるし、物事の好き嫌いがあってもおかしくないと思います。嬉しい時もあるし、落ち込むことだってあります、その繰り返して、時間が進んでいっているんじゃないかなあと思っています。そういった中で、このレンジャー活動に参加してきたのは、やっぱりそれだけ魅力があるからだ、と信じています。だから、これからもできる限り参加をし続けていきたい、と思っています。結局、具体のイベントなり、研修なりについては書いていませんが、それぞれ参加した、「その時、その時」なりの思い出があるので、どれもがよい経験だったと思っています。

～常識ある「ひと」として～

一つだけ苦言を呈しておきたいと思います。もちろん、自分自身に対する戒めとしても。

昨年度の会報の別冊（一年間の感想文集）でも、ある退会レンジャーの方が触れていましたが、再度その内容について。学生であったり社会人であったり、それぞれみんな主たる生活の場をもってレンジャー活動に参加していることと思います。この参加についてであります、「連絡」が非常に悪い、ということです。あたりまえのルールを守ることができていないのです。「ボランティア」だから行けるときに行ったらいいじゃないか、この部分には異論はありません。しかし、その意思表示を怠っていると、何も計画が立てられないばかりでなく、まわりにも影響を及ぼします。(もちろん、罪滅罪の影響ということです。)やりたいことがあっても実行できないということになりかねません。

また、個人レベルでみた場合、そういったことは、いずれ人から信頼されなくなるという結果を生み出します。どんなに良いことを言ったとしても、少なくとも、最低限のルールを守れない人は、話を聞いてもらえないのがオチです。また、信頼もされません。さらには、失った信頼を取り戻すには、少なく見積もっても、それまでのせめて倍以上のことをしなければ取り戻すことができないことは言うまでもありません。僕自身も、これまでいろんな失敗を経験して身にしみているだけに気になってしまいます。

みなさん、それぞれ忙しいということはあるでしょうが、その合間で連絡の電話一本入れる、ほんの2～3分の時間すらないでしょうか？人との関わりにおいてとても重要なことです。気をつけたいものです。

いろいろ長いこと書きました。有田さん、不破さんはじめ協会のみなさんや、レンジャーの方々には大変お世話になりました、ありがとうございます。そうしたまわりの人達から教えられることを大事にして、これからもいろんなことにチャレンジできたらいいなあと思っています。来年度もよろしくおねがいます。退会されるレンジャーの方々についてはたいへんお疲れ様でした。機会があれば、また顔を出してくださいね。

～何気なく過ぎていく時間だけど、その人その人にとって

素晴らしいものであってほしいよね～

一年間の感想

岡本 真由美

この一年間を振り返ってみると、あまり参加していなかったのに、思い出は少ないけれど、出来るようになったことが3つある。

1つめは、班のリーダーになって、大勢の人を相手に話が出来るようになった。私はこうみえてもシャイなので、人前に出て真面目な話をしても、緊張して何を言っているのか分からなくなる。だから、12月と2月のイベントで班のリーダーを頼まれたときは、「練習」と思ってやってみた。最初は不安だったが、やってみると出来るやんと思った。

2つめは最近、少しずつ鳥がわかるようになったかな。3年前は、スズメとカラスとハト以外は全部「変わった鳥」で片付けてしまっていた。興味はあったので、教えてくれる人が周りにいたおかげで少しずつ、いろんな鳥の存在に気付くようになった。

3つめは山登りを楽しめるようになった。子供の頃、しんどいだけでぜんぜんおもしろくなかった。でもパークレンジャーで登る機会が多くなって、山好きのレンジャーの人やイベントに参加してくれた子供たちの楽しみ方を見ているうちに、頂上までたどりつくことが山登りではないんだと思った。今度1人で登ってみて気に入った場所でポーッとするのも悪くないなーと思い始めた。

今まで通りの生活を送っていたら、出来るようにはならなかったであろう。パークレンジャーという新しいコトにチャレンジしてみても得たこの3つ。きっとこれからの人生にもプラスになると思う。

この一年間を振り返って

山田 千佐

この一年間、パークレンジャーの皆さんの仲間入りをさせてもらい、私自身たくさん変わったと思うところがあります。

そのうちの1つは、小さなことに敏感に感じるが多くなり、ちょっとした幸せをいっぱい感じるできるようになっていた（知らないうちに）ことです。例えば、何気なく朝、駅へ向かう途中にマンションと団地の間から遠くの山とちょっとピンクに染まった空が少こーし垣間見れることに、ああ、いいなあと思えた。そしてああ、朝早く起きたからやなあ、ああ幸せやなあ、と何かわからんけど思うのです。目覚ましが鳴ってから布団から出るまで30分はかかるのにね。起きてんのがいやで。

そんなちょっとしたことでふっと気付くことができるようになったのも、パークレンジャーを通してたくさんの人と1つのものに対して色々な感じ方をする時間を共に持てたからだと思います。

もう1つは、やっぱりいろんな人、きついい人がいっぱいいて、こんだけ人ってそれぞれちがうんやって知ったこと、ちがう人らが集まっているからおもしろいんやなと思ったことです。だって私をあれだけこてんばんにいじめてくれた人たちに（誰とは言えませんが）出会えたのは久々で、快楽の境地にはまりそうになりました。いや、でも本当に、パークレンジャーは皆個性があって、それぞれ立場が違って、でも共通するもので皆つながっている。その輪の中に私もいることができた、ことにああ幸せってこれまた思うのです。

終わりです。

一年間の感想

磯野なつ子

レンジャーをやって3年。早かった。でも振り返ってみるとたくさんの人との出会いがあった。レンジャー仲間、協会の人、講師として来てくれた先生、そして、ビジターの人達。

最初は、子供と木が好きという気持ちだけでレンジャーを希望してここに入った。

イベントも自然の知識が不十分なまま参加し、ビジターの人と接した。3年間、成長したかなって考えるとうーんと首をひねる。今年参加したイベントを思い返すと、ビジターと接することが随分楽になっている。へんに肩に力が入ってないし、自然に自分自身楽しんでいる。これが、少し成長した点かなと思う。インタープリターとしてのレンジャーになるためには、まず人に慣れることからスタートかなと思う。人に慣れないと余裕がもてない。かみつかれる訳じゃないけど人と自然に接するのは難しい。私の場合3年かかってしまったみたいだ。時間はかかったけど、この経験が今の仕事にも生きてきている。今、仕事で人と会うことが多い。いろいろな人がいるけど自然に肩の力を抜けるようになった。人にはそれぞれペースがある。そのペースにうまく乗る。それに乗れるか乗れないか音のリズムみたいな感覚がとても心地良い。

一年間の感想

3期生 宮川 聡子

感想を書くまえに、．．．私は現在スキーで“おてんば”をしてしまい、左ひざの半月板を痛め通院治療中です。こんな目にあっても、まだまだ滑りたい気持ちは人一倍．．．でも、とっても反省しています。皆さんも気をつけて下さい。

さて、もうすぐパークレンジャーの活動に参加して1年が過ぎようとしています。一番印象に残ったのは、朽木村で見た「星空」ですねえ．．．ただ、星座についてほとんど知らないの、次に行く時までには少し勉強して．．．そう！私には、その「少し勉強」してとか、「身につけて」っていう姿勢が足りないのですね。

活動には、自分なりに他の事とバランスを取りつつ参加しましたので、全体で見ると少ないですが、一回ずつ得るものがありました。

来年度も、できるだけ頑張りたいと思っています。協会の皆さん、レンジャーの皆さん、色々ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

感想

- 5月 ええ～雨
- 6月 やっぱり、雨が…
- 7月 やっと晴れた！ 暑っ～い
- 8月 暑い、暑い、くそ暑い！
- 9月 毎日ごくろうさん。“うワ～きれい！夜景が…”
- 10月 ドングリクッキーなかなかうまいゾ！
- 11月 あき、秋…、芸術、アーティスト！
- 12月 やっぱり『サム・イヨ』がいちばん！
- 1月 ことしこそは…
- 2月 だいじょうぶかな？！ 集まらんナ？！ やっぱりナ？…

いま、ちょっと、軽い目まいが…

みんなに期待した分、少し“苛立ち”と“戸惑い”が、
みんなに感動した分、少し心地よい疲労感が

そして

来年度から、

いや

あしたから、もう一度みんなといっしょに…

そんな感じかな…

ありた

パークレンジャーと共に歩み早くも3年が過ぎてしまいました。今思えばいろんな事がありました。まわりにとっては、小さな事件でも、僕にとっては、大きく心に残る事件もたくさんありました。また、多くの人と交流し、本当にたくさんの事が学べたと思います。

例えば、頭の中では、食べ物は大切にしなければいけないと分かっているけど、実際本当に分かることは、難しいことだと思います。しかしひょんな事件から、食べ物について深く考えるようになり、それが事ある毎に、脳裏をかすめるようになります。こういった小さな事件を連続して体験する間に、僕にとって新しい価値観が生まれ、これまでの人生を振り返り、新たなる出発への足掛かりとなっているような気がします。

一生の間に一体何人ぐらいの人と出会えるのだろうかと考えた時、そうそうたくさんの人とは出合えないような気がします（もちろんマスコミや、都会で擦れ違う人等を除いての話ですが）。その中で真剣に意見を交わしあったり、いろんな体験をする場所がどれだけあるのでしょうか？ごく限られた人と場所しか残らないのではないのでしょうか？

僕にとってパークレンジャーと共に活動する場所は、本来の目的はもちろんのこと、時には意見をぶつけあったり、またと気には笑いあったり慰めあったりしながら、人格を形成する場所であるとも考えています。

今までのイベントを通し、本当に多くのことを学ばせてもらいました。またこれからもお互い学びあって行けたらと思っています。どうぞ今後ともよろしくお願いします。

不和 紅樹 ～熱き思いの断片より～

編集後記

1996. 2. 29

(あいうるう年!!)



Y. INAGAKI



N. KIKU

凡そだ うれいんだ
生るよろこび
愛と勇気だけが友達さ

何が君のしあわせ 何をして喜ぶ
わからないまま終了
そんなのはヤダ!

「アンパンマンマ-チ」で
けこー心にひびくわー

きく

あいかわらすだけで
時間はすぎていく...
「だいたい、
「たのしいこと」という、ごほうび
をひらけて、がんばりこいこう!
と思う 今日このころ...
会報作業あつかいさんでした
またね!!

いながき

早いなあ〜。活動始めて
もう2年。思いかえすと色々なことが
あったけど心に残っているのは いつも
楽しいことばかり...

I.P.W.S.も Vol. 5 まで きました。
毎回遅くまで編集作業はあそび
けれど、できあがった時は本当に
うれいです。 つばきもとちあつ

昨日からの 下痢と熱で
今日は 仕事も休んで
もう ぶらぶらじゃ〜!!

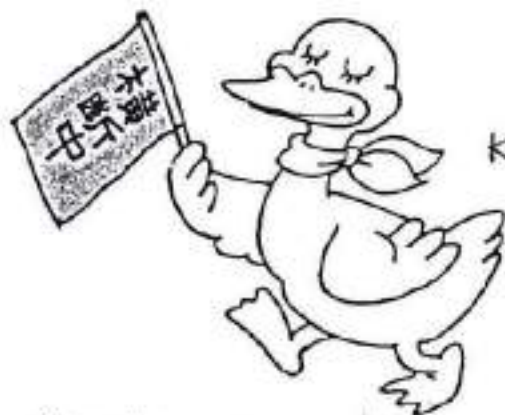
明日は シンジャースターだと
いうのに、大丈夫かな?

えらいこちや

きんちやん



H. KANAZAKI



K. TSUBAKIMOTO



『あしあと』をみたことがありますか？

よく、かんがえてみると、みたことがないようなきがした。
だって、いつもは『くっ』をはいているし、
だいたいアスファルトだらけ…

ここでは、けっして『はだし』

というわけではないのだけれど

『っち』のうえをあるくことのおおいわたしたちの
たくさんのおしあとがみえてくるはずですよ。

ちよと、ゆっくりあるいてみようよ…

そこには、たぶん…

④

夢みていた。

あるひとがこんなことを言っていたのを、ふと思い出した。

「夢みることばかりのことだ。なぜって、未来だけを見て、今をみているからだ。」

過去を振り返って見た。

あるひとがこんなことを言っていたのを、ふと思い出した。

「過去を振り返ることはよくないことだ。なぜって、過去だけにこだわってしまって、今をみているからだ。」

今を考えてみた。

「いったい、どうしたらいいのかなあ？」

たくさんのことが頭のなかをよぎっていく。

ひとつおもう。

「迷うことがあるからこそ、人なんだろってこと！」

…そして、何かをしようとしている自分が
いるんだってことに気付いたんだよね…

①

